

石亀土の観音さん

あるとき、大府村石亀土でひとりの農夫が荒地を耕しているときに、あやまって塚をけずりとつてしまいました。それからというもの、村の人の間に、

「おい。聞いたかい、ひどだまが出るという話だぞ。」

「おれも聞いたぞ。真夜中になると、なんともいえない声がして、青白い火がふわふわと飛んぐるんだと。」

という話が、ささやかれるようになりました。

やがて、村中に、

「これは、塚をこわしたたたりだ。」

「あそこは、今川の侍たちがおおぜい殺されたところだぞ。」

「塚は、桶挾間の戦いで戦死した人を祭つたものだったんだ。」

「塚がなくなつたので、行きどころのない霊が、泣きながらさまよつとるんだな。」

と、うわさが広まっていきました。石亀土は、向かいに桃山が見えるたいへん景色のいいところですが、でも、村の人は、うす気味悪く思つて近づかなくなつてきました。

時がたつにつれて、村人たちの間で、

「石亀土に行くど、たたりがある。」

と、いわれるようになりました。たたりをおそれた農夫は、その土地を安く売ってしまいました。新しい畑の持ち主は、たいへん気の強い人でした。村人に何をいわれても、

「そんなことがあつてたまるか。わしが立派りっぱな畑にしてみせるぞ。」

といつて、まったく気にしません。石亀土の土地を開墾かいこんして畑を広げていきました。しかし、何事も変わったことは、起きませんでした。

それから何年かたったある日のこと。その畑に、とても大きなさつまいもが、たくさん出来ました。それまで、何を植えてもよく育



たなかつた畑だっただけに、畑の持ち主は大喜びです。さつそく、取れたさつまいもを家族そろって食べました。するとどうでしょう。その夜、家族のみんなが、死ぬほどの腹痛はらいたになってしまいました。村の人たちは、

「石亀土のせいだ。」

「やつぱり、たたられてにちがいない。」

と、再び、塚かたのたたりの話がわき出してきました。それから、たたりをおそれ、その土地には、村の人たちはもちろん、畑の持ち主も近づかなくなりました。土地はほつたらかにされ、草がぼうぼうにおいしげり、無気味になるばかりでした。

また時が過ぎて、今から数十年前のことです。近くの人たちが集まって、石亀土にさまよっている霊をしずめようという相談がまとまりました。そこで、ある立派りっぱな行者ぎやう者じやにおいのりを願ねがいしました。

その夜のことで、行者のままくくらら元もとに、観音かんのんさんが現あられて、

「お前は、この土地の話はなしを聞いてますか。」

と、たずねられました。行者は、まぶしく光りかがやく観音さんに、

「はい、知しっています。それで、どうしたらいいか思し案あんしています。」

と、答えました。

「この地には、成仏じょうぶつできない霊がさまよっています。これから信心して朝夕お参りしてくれるなら、この霊を安やすらかにしてあげましょう。」

というど、観音さんは、すうつと消きえてしまいました。

この話を行者から聞いた人たちは、さっそくお堂を建てて、観音さんを祭って、毎朝毎晩ひたすらおいのりを続けました。

それから、その土地には、何のたたりも起こらなくなりました。

大府地区に伝わる話です。観音堂は、石亀公園のとなりにあります。桶狭間の戦いは、豊明市栄町から名古屋市緑区有松町にかけての広い範囲で行われました。大府市の北崎町や共栄町はその戦場と隣り合ったところです。そのため、大府市にも、桶狭間の戦いにかかわる言い伝えが数多く伝えられています。